

インターバンクの声（2017年9月21日）

米連邦準備制度理事会 (FRB) は市場の予想通り約 500 兆円まで膨らんだ保有資産の縮小を 10 月から開始することを決定した。注目となっていた年内の利上げについては、インフレが軟調でその可能性はほとんどなくなったと思われていたが、年内あと1回の利上げを想定しているとした。労働市場が引き続き底堅く、経済活動の上昇も緩やかながら続いていることを根拠にしているようだ。委員会メンバーの 11 人が年末までのフェデラルファンド・レートが現状よりも 0.25% 高い水準が適切だとの見方を示した。2018 年以降の利上げ回数見通しについては、2018 年が 3 回、2019 年が 2 回、2020 年が 1 回となっているが、長期の中立金利見通しについては前回から 25 ベーシス引き下げて 2.75% とした。年内にあと1回の利上げがあるとの従来の想定が維持されたことで、ドル円は発表前の 111 円 40 銭前後から 112 円台中盤までドル買い・円売りが進んだ。一旦、材料出尽くし感からドル売り調整が入りそうな気もするが、弱い経済指標が並び始めるまではそれほど大きな反落もないかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。